

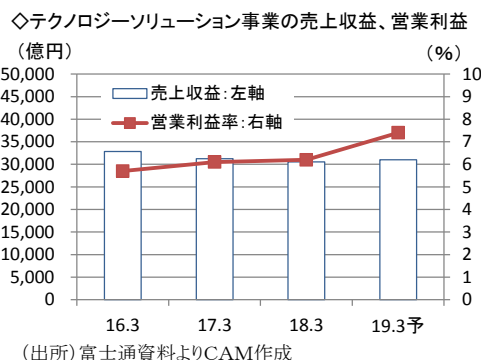
企業ニュース 富士通

(東証1部：6702) <http://www.fujitsu.com/jp/>

作成者：奥村義弘

グローバルICT企業

1935年設立。テクノロジーをベースとしたグローバルICT (Information and Communication Technology) 企業。通信システム、情報処理システム、電子デバイスの製造販売やそれらに関するサービスを提供する。経営方針としてITサービス事業に経営資源を集中し、電子デバイス事業などは独り立ちできる体制を目指す。2020年度までにグループ全体で5,000人規模の配置転換を発表、営業職やシステムエンジニアとして育成し、成長領域を増強する。ITサービスを展開するテクノロジーソリューション事業では、2022年度に売上高を3兆1,500億円、営業利益率を10%まで引き上げる。



構造改革が進展中

19.3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は売上収益が1兆8,345億円、前年同期比5%減、営業利益が953億円、同240%増。売上収益はネットワーク事業で国内携帯電話向け基地局投資の抑制が継続、スマートフォン向けLSIの需要減などがあったが、国内ITサービスを中心にカバーした。またPCや携帯端末事業の再編影響で880億円の一時要因の減収があった。営業利益は本業がほぼ横ばいでの推移だが、退職給付制度の変更、事業譲渡に関する影響などの特殊事項で約666億円の押し上げ効果があった。

19.3期の会社計画は売上収益が3兆9,000億円、前期比5%減、営業利益が1,400億円、同23%減。中核のテクノロジーソリューション事業が同2%増収、営業利益が2,290億円、同21%増。パソコン等のユビキタスソリューション事業が同29%減収、営業利益が20億円、同82%減。LSI等のデバイスソリューション事業が同4%減収、営業利益が130億円、同5%減。会社側は構造改革の効果は20年度から発揮されると説明した。経営のスピード感を失望する見方もあるだろうが、半導体工場の売却などリストラは着実に進展している。無線技術に強みを持つエリクソン社と提携し、第5世代通信(5G)無線基地局の開発を進めるなどの方針も明らかにしている。

[株価動向・投資判断]

IT大手として、割安なバリュエーションである。構造改革の効果はこれからであり中長期視点から評価が高まる可能性がある企業と言えよう。

<6702 富士通 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	4,132,972 (▲13)	117,455 (▲3)	124,162 (▲6)	88,489 (2)	42.8	9.00
18.3	4,098,379 (▲1)	182,489 (55)	242,488 (95)	169,340 (91)	82.5	11.00
19.3 予	3,900,000 (▲5)	140,000 (▲23)	180,000 (▲26)	110,000 (▲35)	538.2	87.00

(注)18年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施。



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/10/29)	6,622 円
年初来高値(高値日)	8,260 円(18/9/26)
同 安値(安値日)	6,567 円(18/10/29)
予想PER(19.3予)	12.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)	5,709.1 円
PBR	1.16 倍
予想配当利回り	1.31 %
(1株当たり配当金年87.00円)	
ROE(18.3)	17.2 %
発行済み株式数	20,700 万株